

OBCIの歩みとPostgreSQLで振り返る OSSの歴史

オープンソースビジネス推進協議会(OBCI)
理事長
石井達夫

OBCIの設立

- 2008年設立
 - Linuxだけでなく、データベースやミドルウェアでのOSS普及を目指す
 - 企業に対してOSSを活用するための情報を提供
 - 会員企業のOSS関連サービスについての情報を提供
 - 有償サポートサービス
 - 教育サービス

OBCIのこれまでの活動

- OSCへの出展
- OSS啓蒙活動
 - OSS入門セミナー
 - キーパーソンを招いてのセミナー
 - 事例紹介
 - メルマガ配信
 - プレミアムセミナー



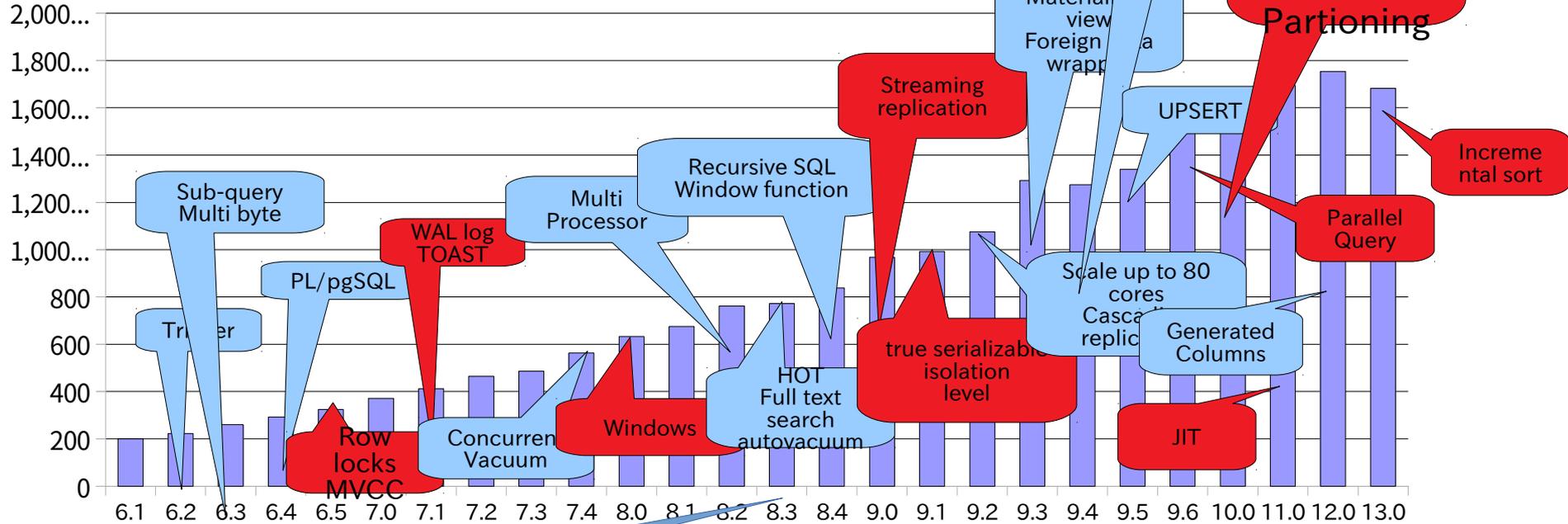
OBCIは解散します！

- OBCIはその歴史的役割を終えた
 - データベースやミドルウェアでOSSは充分普及し、OBCIの使命を果たすことができた
 - 様々なメディアを通じてOSSを活用するための情報が入手できるようになった
 - OBCI会員企業の情報発信力が高くなった
- 今までご支援いただいた会員企業、会員の皆様、関係者の皆様ありがとうございました！

OBCI設立から今日までのOSSの歴史 をPostgreSQLで振り返る

PostgreSQL History

lines of code

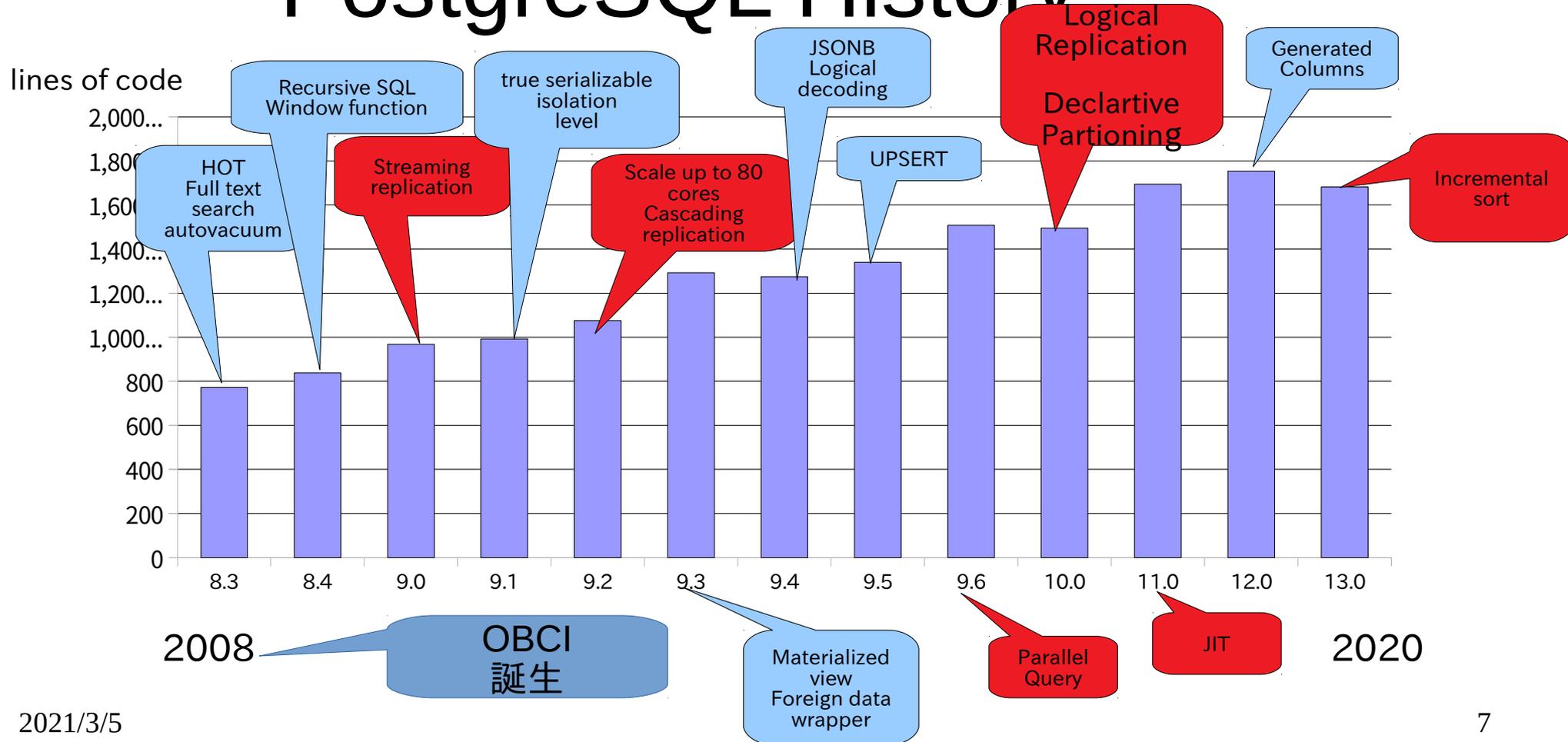


1997

OBCI
誕生

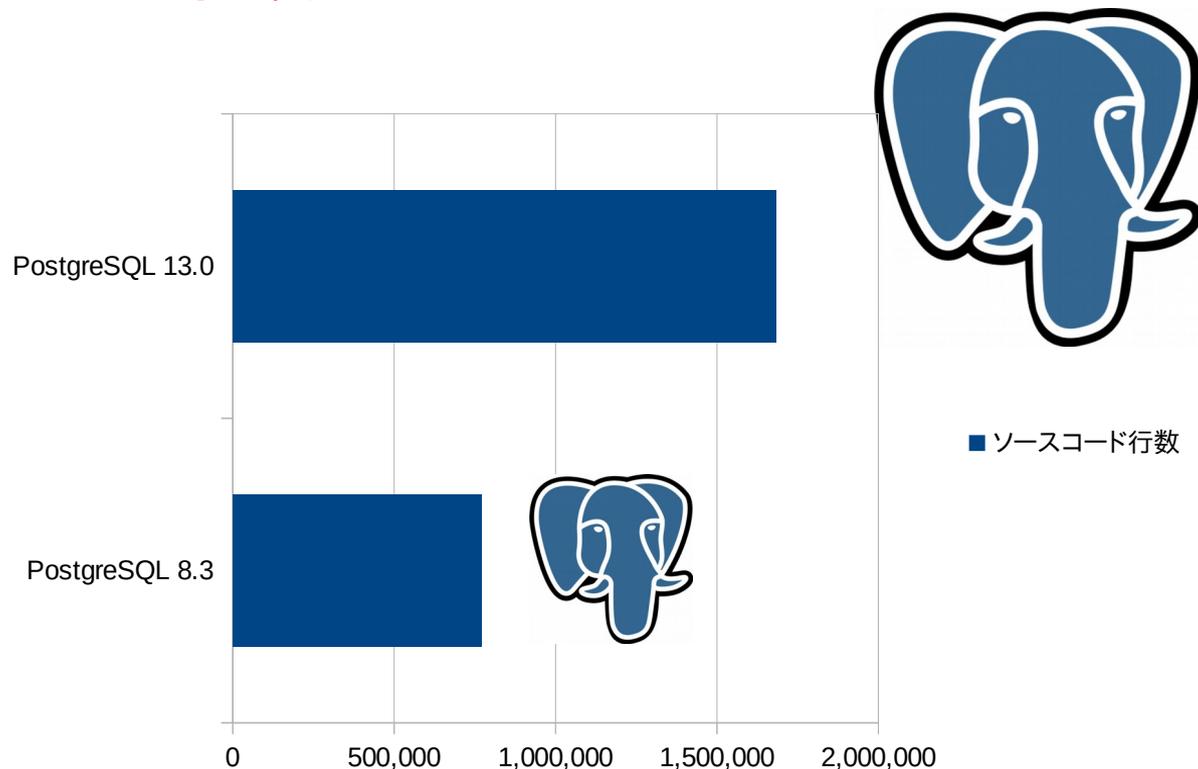
2020

PostgreSQL History



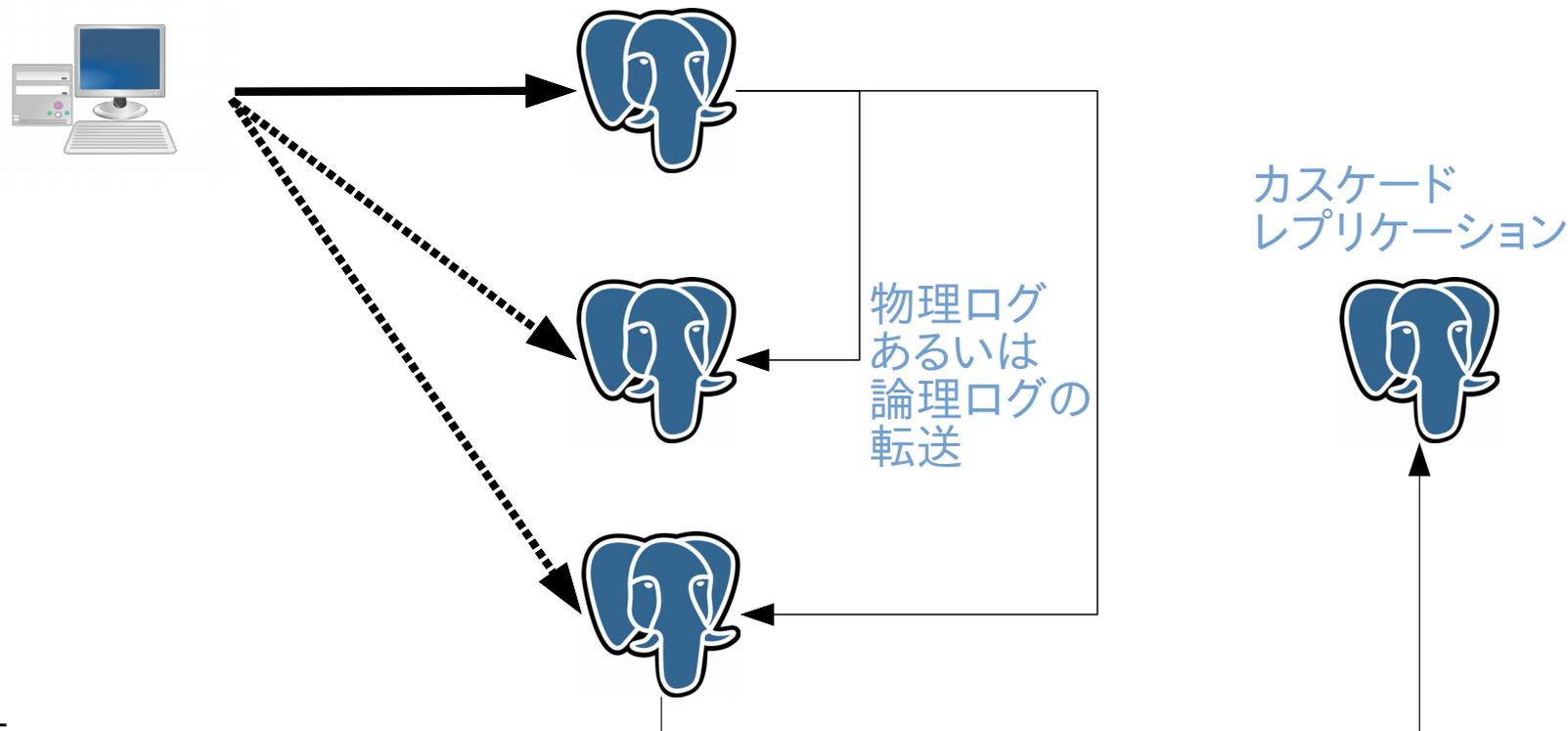
2008年から12年間の変化

- ソースコード行数は2.1
倍に!

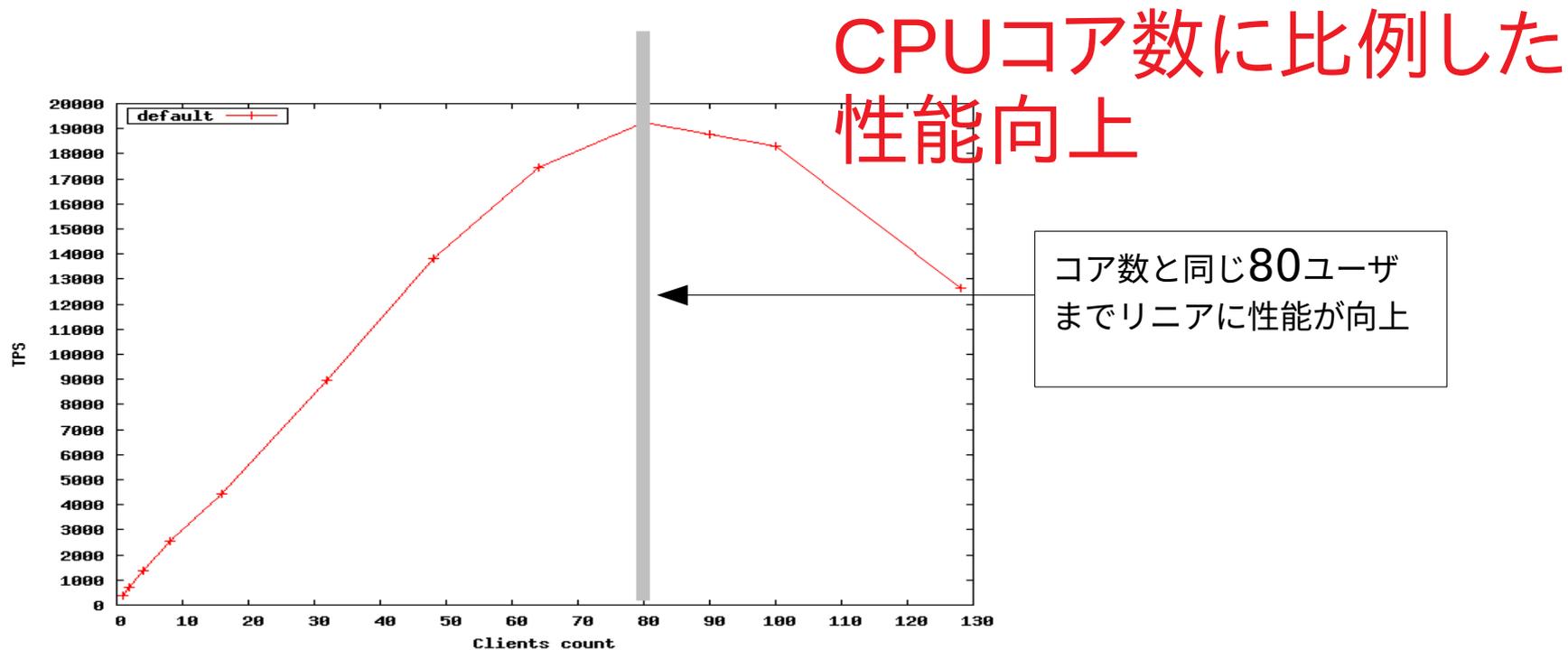


2008年から12年間の変化

組み込みレプリケーションの登場!



2008年から12年間の変化

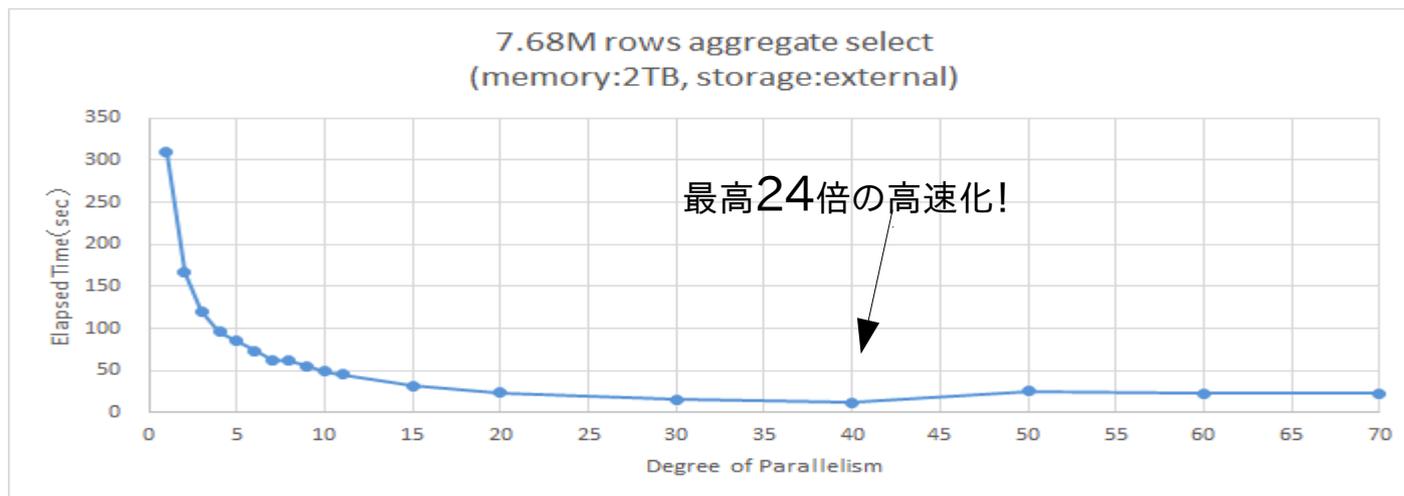


PostgreSQL Enterprise Consortium公開資料より

2008年から12年間の変化

パラレルクエリによる性能向上

実行時間



→ パラレル化大

PostgreSQL Enterprise Consortium 公開資料より

2008年から12年間の変化

- ミッションクリティカル用途に耐える本格的なパーティショニング機能の登場!
 - テーブル作成時にパーティションの組み方を宣言する (Declarative (宣言型))パーティショニング
 - トリガなどのユーザ設定が不要
 - OracleではEnterprise Editionでのみ利用可能
- 大容量のデータベースを扱うDBでは必須機能
 - パーティション数が増えても性能が劣化しにくい

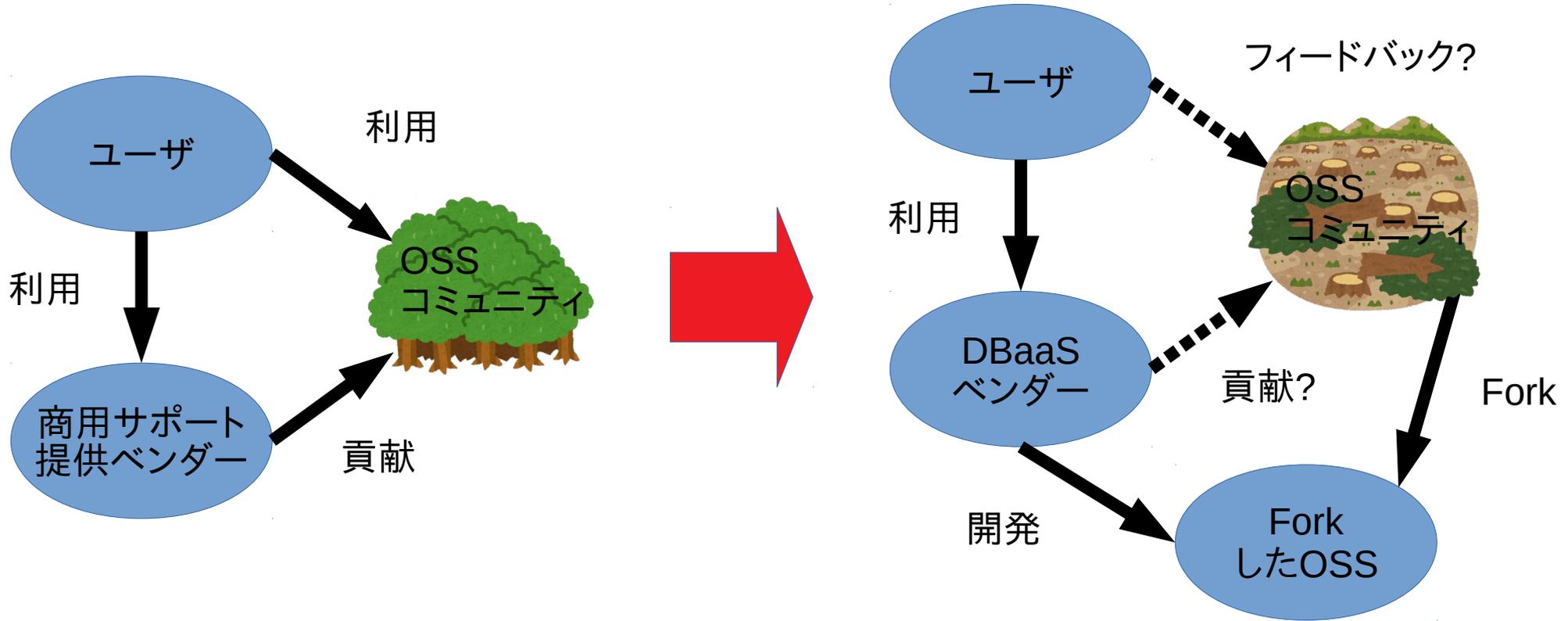
2008年から12年間の変化

- Database as a serviceの登場!
 - Amazon RDS for PostgreSQL (2013年)
 - Amazon Aurora for PostgreSQL (2017年)
 - Microsoft Azure Database for PostgreSQL (2017年)
 - Google Cloud SQL for PostgreSQL (2017年)

2008年から12年間の変化

- まとめると
 - スケールアップ
 - 多コアCPU対応
 - パラレルクエリ
 - 宣言的パーティショニング
 - スケールアウト
 - レプリケーション
 - DBaaSの登場で、より簡単にPostgreSQLが使えるようになった

OSSエコシステムはどうなる？



長い間OBCIをご支援いただき
ありがとうございました